



## 海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介その5

海の風景とくらし部門の優秀賞、南下浦中学校 1 年生の尾仲讃礼（おなかさら）さんの作品です。タイトルは「空へと向かい、海にのびる地」。

地層の美しさ、そしてその地層が、空へと向かう躍動感が、鮮明に感じ取れる作品です。この地層が堆積されたのは 1 万年前？ 10 万年前？ 自然界のロマンを感じ取ることもできます。

三浦の海、空、そして雲も、それぞれの魅力が伝わってくる 1 枚です。

同じく優秀賞、南下浦中学校 2 年生の東来渚（あずまらな）さんの幻想的な作品です。タイトルは「海へのスポットライト」。

夕方 5 時ごろ、自宅のベランダから撮影したそうです。「反薄明光線」というもののようです。この作品から、宇宙を想像する人も、未来をイメージする人もいるでしょう。日常を忘れさせてくれるような、すてきな 1 枚です。



同じく優秀賞、初声中学校 3 年生の馬場萌音（ばばもね）さんの作品。タイトルは「天国それとも地獄」です。

三戸浜から撮影した作品です。「美しいもの」という概念を揺さぶるほどのインパクトある夕焼け。迫力や激しさも感じるほどです。タイトルは「天国それとも地獄」皆さんはどちらをイメージしますか？

特別賞を獲得した名向小学校 4 年生の石塚由斗（いしづかゆうと）さんの作品です。タイトルは「天から帰った船」。

石塚さんは、「富士山の周りにかかった雲が、天からの道のように見えて、夕日が差し込んで船を照らして、とても幻想的でした」とコメントしています。手前に写っている 2 艘のヨットの大きさの違い、マストの高さの違いも、構図のバランスを生み出しています。東京大学三崎臨海実験所所長が選んだ 1 枚です。



11 月 20 日（水）、上宮田小学校の 3 年生が、海藻おしば教室に参加しました。

最初に、DVD「ようこそ海の森へ」を見て、海藻の果たしている役割について学習しました。子どもたちは、海藻の森が「生き物を育てるすみか」になり、「海をきれいにする」働きをしていることを学びました。



続いて、活動に移りました。台紙となるはがきを水に浸し、その上に海藻を丁寧に広げていきます。各自が思い思いのデザインを考え、素敵な作品ができました。作品は、1 週間後くらいに、乾燥、パウチされて学校に届くそうです。

日本海洋レジャー安全・振興協会や海藻おしば協会の皆さん、ご指導ありがとうございました。



（文責 事務局長 渋谷）